

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年11月18日(金)

その1 通算 278号

◇ 「修学旅行」よもやま話

新幹線で京都駅に着くと、そこで待機していたのは「55人乗り(正座席数45名)の大型バス」。

旅行人数は13名。コロナ対策として正座席18名のマイクロから中型バス(正座席数27名)に変更はしていたが、バス会社の方から「都合により、料金そのままの大型バスに変更」依頼を受けてのものだ。おかげで「お得な^①超密回避」。

ところが、ご覧のように児童らは、ほぼ密集。仲がよいからこうなる。→→**赤破線円**○→→

しかも、ずっとおしゃべりやカードゲームが続き、バス移動中は児童の笑いが絶えない。

児童らは学級 TIME を満喫した2日間だった。



55人乗り
帝産バス



バス車内

超密回避?

さらに この前方3列分が空席

バスでお得だったのは種類だけではない。思いもかけない「お得」があった。【^②腕のいいドライバー】にバスの運転を担ってもらったことだ。

バス運転手は、^{ていさん}帝産交通(帝産バス)の松浦ドライバー。年齢は20代後半と若手だが、ハンドルさばきは^{さすが}流石のプロ。【**発進&停止の「ゼロ・ショック」**】は^{きょうたん}驚嘆の域で、行程途中は景色よりも運転手が操るバスの挙動に気を取られた程だ。

^{よもやまばなし}四方山話として紹介させていただく。※路線バスに乗った時は、体感比較をおすすめしたい。

【**発進ゼロ・ショック**】はスムーズなギアチェンジによるもの。特にクラッチ操作だ。車を運転される方なら分かると思うが、マニュアル車で最も難しいのが「低速ギアの半クラによるギアチェンジ」。ギアつなぎが悪いと、ガクンとショックがくる。この「ショックの小ささ」=「商用ドライバーの腕」ともいえる。完璧だ。

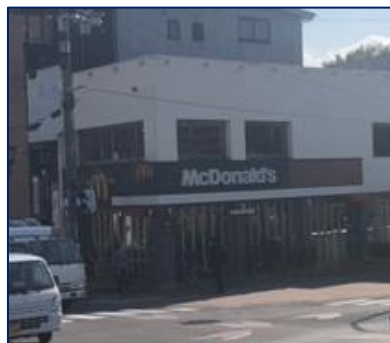
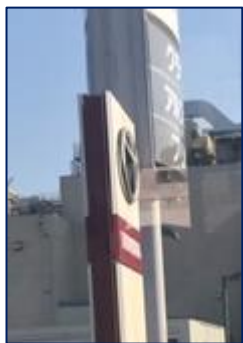
続いて、特筆すべき【**停止ゼロ・ショック**】。松浦ドライバーの運転から、「**停止ゼロ・ショック**」を達成する重要ポイントを探り出した。

①ギアチェンジ・②広めの車間距離・③ブレーキングの3点である。※詳細は裏面

①ギアチェンジ・②広めの車間距離・③ブレーキングの3点は密接な関係がある。松浦ドライバーは、所謂「エンジブレーキ」の効果的利用に長けていた。ギアチェンジの巧みさは発進時で述べたとおりだが、エンブレを利用する際に重要なのは②広めの車間距離の確保である。これがあるからエンブレの使用が可能となり、停止ショックをもたらすブレーキの使用を控えることができる。さらに停止時の③ブレーキングであるが、これには驚いた。ブレーキの使用は、おそらくバスが止まってからのみだろう。停止に向けてエンブレでバスの速度を落とし、さらにバスの重さを利用して減速を重ね、止まってからブレーキング。これぞ「ゼロ・ショックの極意」である。これらの操作をずうっと続けるわけだ。秀逸だ。優良ドライバーに巡り合えた幸運。おかげで快適なバス移動が可能となった。



さて、奈良・京都をバスで巡り、気付いたことがある。街の景観を崩さぬ企業協力。三重県の伊勢などでもよく見かけるが、イメージカラーを抑えたモノトーン調の看板である。左写真は奈良県のLawsonの看板。若干青みが濃く、落ち着きを備えてシックな感じである。



「TOYOTA」も、「Times」も、「McDonald's」まで、みんなモノトーン調だ。写真は撮れなかったが、**くすり**の赤い看板でおなじみの「スギ薬局」の看板まで【こげ茶色】であった。

ちなみに徹底されているのは京都府よりも奈良県の方で、これは意外な事実。

< ネット情報・【NHK・for school】 > より転載

なぜ京都の看板は目立たないの？～近畿地方～

京都の町を歩くと、ふと気づくことがあります。看板が見当たらないのです。ファストフード店の看板も、コンビニエンスストアの看板も、派手な色ではなくモノトーンに抑えられています。看板は、お客を引きつけるためのもの。京都では一体なんのために看板を目立たなくしているのでしょうか。

1990年代。町の再開発が進み、高いビルが次々と建てられました。その陰で、昔ながらの古い町家の多くは取り壊されていきました。その後も、歴史ある建物のすぐ近くに高いビルが建ち、目立つ看板が取り付けられ、古都の風情が損なわれました。2005年に行われた市民アンケートでは、およそ8割の人が「かつての魅力ある景観が失われていると思う」と答えました。多くの市民が、京都の景観に対して危機感を抱いていたのです。

当初、地元の企業や商店は、看板が目立たないと客が減ってしまうのではないかと反発しました。看板の改修工事の費用負担も重荷となっていました。そのため市は、企業や商店が優良デザインの看板を作るための補助金制度を設けました。

古都京都の景観を守ろうとする市民の思いがきっかけとなって、企業や商店も看板の改修に応じるようになりました。そして2017年には、およそ95%が条例に沿った看板を設置するようになっていきました。